21世紀を生きる
子どもたちのために

公益財団法人国際文化フォーラム
評議員会長

野間 省伸

国際文化フォーラム（TJF）は、2012年度も予定しておりました事業をつつがなく達成することができました。これも皆さまのご理解とご協力あってのことと心より感謝申し上げます。

21世紀になりICT（情報通信技術）の発達は加速し、情報は瞬時に世界に伝わっていきます。また、国境を超えて人の往来もますます盛んになっています。これまで以上にさまざまなことばや文化が日常生活に自然に入り込んでいるのが現実です。

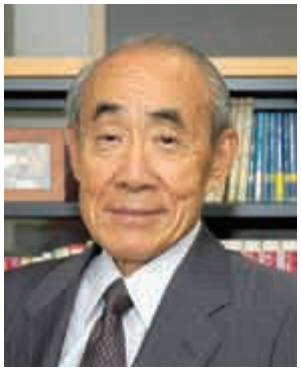
世界各国はこのような変化に対応し、新しい未来を切りひらくために、新しい知識、能力、資質をもった人を育てることに取り組んでいます。なかでも注目されている力のひとつ、コラボレーション力をもつ人の育成があります。想像もできない新しい課題に直面する時代には、傑出したリーダーがひとりで答えを出すのではなく、多くの人たちが知恵を出し合って、議論し、誰も持っていなかった答えにたどりつくことが必要だと思います。これからの時代を担う人たちには、ますますこの力が求められることでしょう。

5年先に起こることですら予測し難い21世紀ですが、チャレンジ精神をもって羽ばたく若い人たちが育つことを願ってやみません。

TJFは、世界の小中高校生が「ことばと文化」を学ぶとともに、対話を通じて自他の理解を深め、多様な文化背景をもつ人たちとであい、コラボレーションする場をつくるため一歩一歩、事業を確実に進めてまいります。

皆さまの一層のご支援とご理解をお願い申し上げます。

「つながりの実現」をめざす外国語教育を



公益財団法人国際文化フォーラム
理事長
渡邊 幸治

TJFが刊行した『外国語学習のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』は、中国語、韓国語の教育関係者のみならず、フランス語、ドイツ語など他の外国語教育関係者からも注目を浴びています。その理由として、「学習のめやす」の掲げる人と人との「つながりの実現」という理念が、外国語教育に、単なる語彙や文法の習得という目的にとどまらない新しい役割を生み出したからではないかと考えます。

TJFとしては、いろいろな外国語の教育に「学習のめやす」が取り入れられている実情にてらして、いわゆる「隣語」の定義を拡大し、隣の人とつながるためのことば、自分に大切な外国語と規定し、中国語と韓国語に限定せず、私たちが日々の生活で接するあらゆる国のことばも隣語に含めるべきではないかと考えるに至りました。そして、ことに若い世代が隣語にふれて視野を広げることの重要性について広く賛同を得るべく、「りんご記念日」寄付キャンペーンを開始しました。

とはいえ、TJFとしては、当然のことながら、まずは中国語、韓国語の教育に引き続き力点を置き、ことばを通じて日本の高校生と中国、韓国の高校生との「つながりの実現」に努めてまいります。現に、日中の高校生140名が中国の学校の寮で共に生活するサマーキャンプや、日韓の中高校生が交流するプログラム「SEOULで댄스・댄스・댄스(ダンス・ダンス・ダンス)」という画期的ともいえる企画を実現しました。

残念ながら、近年、隣国中国、韓国との関係は歴史認識と領土問題をめぐって誠に思わしくない状況にありますが、こうした時期だからこそ、草の根交流を推進するTJFとしては、中国、韓国の青少年と「つながる」ために粛々と努力していくべきであると考えております。関係者の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

特集　TJFの交流プログラム：コラボレーションの場をつくる 4
2012年度の主要事業をふり返る 8
2013年度の新しい取り組み 14
2012年度の決算報告 16
2012年度の実施事業一覧／主要事業データ 22
財団の概要・組織 26

＊機関･団体の名称および肩書は事業実施時のものです。

TJFのミッション

人やモノや情報が国や地域を超えて行き交う時代となり、学校でも、地域、職場でも、多言語多文化状況が進んでいます。このグローバル社会化がますます拡大するなかで、子どもたちの活躍の舞台は世界に直接つながっていくでしょう。

このような時代を生きる子どもたちが未来を切りひらいていくために必要な力は何でしょうか。他者と対話する力、共感できる力、異なることば・異なる文化の人びとと協働し、新しい何かを創造する力……。

わたしたちはこれらの力を育むために、日本と海外の子どもたちが、互いのことばと文化を学び、交流する場をつくっています。

ことばと文化の学び、そして交流

～日本の高校における外国語教育の促進～

日本にとって重要なパートナーである隣国・隣人のことばをはじめとする外国語の学びが新しい役割を担う環境を整えています。

～海外の小中高校における日本語教育のサポート～

海外の小中高校で日本語を学んでいる200万人を超える子どもたちに、かれらが興味をもっている、いまの日本の文化や若者の素顔・日常生活についての情報を発信し、日本語教育をサポートしています。

～異なることばや文化的背景をもつ中高校生の交流を実現～

違いを超えて互いを「身近な存在」と感じ、他者への共感や理解を深め、自分自身をふり返り、広い視野を獲得していけるよう、サマーキャンプやウェブサイトなど交流の場をつくっています。

特集

TJFの交流プログラム

TJFは2007年度に、小中高校生の交流関連プログラムをTJFの事業の柱の一つとしました。以降、海外の日本語学習者と日本の同世代がコラボレーションを体験できる場を学校の内外につくってきました。

コラボレーションの場をつくる

TJFの交流プログラムは、参加者が韓国語や中国語、英語、日本語など、学んでいることばを実際に使いながらコラボレーションを体験できることが特徴です。ここでいうコラボレーションとは、複数の人が知恵を出し合い、役割を分担しながら、新しいアイディアやモノをつくりあげる活動のことです。そのため、プログラムづくりにあたっては、参加者全員が主体的に参加でき、意見が出しやすくなるような工夫をしたり、意見を調整して合意形成をする場面がおこるようにデザインしています。

日中の高校生のサマーキャンプ

2011年度より「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」(以下、サマーキャンプ)を中国で実施しています。毎回、中国語を学ぶ日本の高校生約90人、日本語を学ぶ中国の高校生約50人が10日間、共同生活をしながらさまざまな活動に参加します。

サマーキャンプでは、毎年ゲストを迎えて「サマキャン☆文化祭」を開催しています。参加者は日中混合のチームに分かれ、主催者として、ゲストが楽しく参加できる企画を考え、準備します。4日間、延べ16時間をかけて、文化祭のオープニングからエンディングまでの構成を考え、日中両言語で進行のせりふを考えたり、会場の設営などに取り組みます。日中の高校生は、学んだ中国語や日本語を記憶のなかから一所懸命引っぱり出したり、新しいことばを互いに教えあったりしながら意思疎通を図り、サマキャン☆文化祭をつくりあげていきます。これまで、たとえば「ドラえもんの歌で踊りながらいすとりゲーム」「自分たちでつくった折り紙のカエルでスピード競走」「手や足を指示されたとおりシートの色の上に置いていくツイスターゲーム」といった企画でゲストを楽しませました。サマキャン☆文化祭の活動では、出会ったばかりの生徒たちのコラボレーションが少しでも深まるよう、表1のような工夫をしています。

文化祭の準備や共同生活を通じて国やことばが違う人たちと濃密にかかわる経験をすることによって、多くの参

表1 「サマキャン☆文化祭」プログラムの工夫

なるべく少人数にする

- 総勢140人の日中の高校生を30人弱のクラスに分け、各クラスが独立して文化祭を行う。
- 各クラスをさらに7人程度の企画づくりグループに分ける。

複数の役割をもたせる、多くの人とのかかわりをつくる

- 企画づくり以外に、司会や会場設営、オープニング、エンディングなどの役割をもつ。
- 企画づくりの途中で2回リハーサルを行う。1回目はクラス内の別グループと、2回目は違うクラスのグループとペアになり、互いのグループの企画にゲストとして参加する。
- リハーサルのあと、相手グループのメンバーと2人ずつ小グループに分かれてフィードバックを行う。自分のグループに帰り、小グループで出た意見を共有する。こうすることにより、役割や人とのかかわりが増えるだけでなく、多様な意見を短い時間で集めることができる。

アイディアを出しやすくする

- 「個人で考える」→「グループ内で共有したあとアイディアをしぼる」→「クラス全体で共有、調整する」というプロセスを繰り返す。
- アイディアを考える時間はなるべく短くし、あらかじめ制限時間を伝えておく。
- 思いついたアイディアは、付箋などの小さい紙にすぐに書きだすようにする。

自ら気づき、仲間から学べるようにする

- 2回のリハーサルで、ペアになったグループの企画にゲストとして参加し、ゲストの視点からよかったところ、改善点などを伝えあう。相手のコメントのほか、自分たちでやってみて気づいたこと、相手グループの企画や進めかたを見て気づいたことについて話し合う。
- 各クラスを担当する大人(引率の日本人教師)は、全体の進行をゆるやかに管理したり、意見が出ないグループに質問を投げかけて発言を促すなどファシリテーターの役割に徹する。

ゲストを迎える

- 本物のゲストを迎えることで文化祭づくりのモティベーションを高める。
- ゲストのことを考えて企画の質を高めようとすることで、話し合いの内容を深める。

加者が、海外の人との交流や留学、国際的な仕事や国際社会の動きに関心をもちます。また、外国語を話すことを怖がらなくなったり、もっと勉強したいと思うようになります。ある参加者は、「文化祭づくりで本当に交流したって感じがする。相手の中国語がわからないときに紙に書いてもらったり、中国語で伝えられないときに相手がわかるジェスチャーを考えて使ったり。いろんな方法で伝えようと格闘しているうちに、コミュニケーションの引き出しが増えた気がする。今は、地元で日本語があまり話せない人に何か聞かれても何とかなるって思える」と語っていました。

外国語の授業での試み

2011年度から、外国語の授業に海外の高校生とのコラボレーション活動を取り入れる試みも始めています。沖縄県立向陽高等学校国際文科中国語コース2年生の中国語の授業と台湾の高校生との交流を一体化させた実践活動です。同校の中国語の教師と、言語教育や交流学習、授業設計、情報教育の専門家とでプロジェクトチームをつくり、年間計画や評価基準づくりなどを行ってきました。1年間、クラスメートや台湾の高校生とチームを組んで、プレゼンテーションや作品づくりなどに取り組むことで、自分の意見をいうことに慣れ、意見の違いを調整するスキルを身につけたり、チームのゴール達成のために自分の役割を果たしたり、仲間をサポートしたりすることができるようになることをめざしています。同時に、コラボレーションに必要な中国語を身につけられるように授業設計を工夫しています。

1) コラボレーションを繰り返す

2013年度は、1年間の目標を四つ設定して（表2）、年間の活動を組み立てており、すべての活動にコラボレーションを取り入れています。次ページの表3にあるように、最初の半年間はクラス内でのコラボレーションが中心になります。グループに分かれて、台湾の高校生に伝えることを目的に、中国語で自分を魅力的に紹介する発表や沖縄の観光案内づくりなどに取り組みます。どの活動も、クラスメートと企画や内容について話し合い、役割を分担して資料や材料を集め、発表用の資料を作成して、クラスでプレゼンテーションし、クラスメートのアドバイスをもとに改善する、という基本パターンで構成されています。各活動の最後に、テレビ会議やウェブサイトを使い、実際

表2　沖縄県立向陽高等学校の実践活動の目標

観点	目標以上	目標達成	あと一歩	がんばろう
1) 中国語（外国語）を学ぶ意味を自ら発見し、積極的に中国語（外国語）でのコミュニケーションにチャレンジできる				
a. 外国語学習への意識	外国語の大切さを理解し、自分にあった学習方法を見つけて学ぶことができる	外国語の大切さを理解し、自ら進んで学ぶことができる	外国語の大切さを理解している	外国語を何のために学ぶのかわからない
b. コミュニケーションの積極性	他の人と関わる機会を自らつくりだそうとする	すすんで他の人と関わるための機会を見つけようとする	機会があれば他の人と関わろうとする	他の人と関わろうとしない
2) 中国語を使って、身近な話題についてのやりとりや、コラボレーションに必要な基本的なやりとりができる				
a. 語彙・表現	意見を調整したり、役割を分担して活動するために必要な語彙や表現を使うことができる	自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解するための語彙や表現を使うことができる	自己紹介をするための語彙や表現を使うことができる	あいさつに関する語彙や表現を使うことができる
b. 話す	相手を説得したり、共感を得る話し方ができる	コミュニケーションに問題がない発音と話し方ができている	部分的に聞き取りづらいところがあったり、途切れたりする	発音が不適切で声も小さく途切れがち
3) 相手の状況や背景に配慮し、適切な方法でコミュニケーションできる				
a. 状況把握	相手の気持ちを確かめながら伝えたいことを伝えられる	相手の気持ちを読み取り、コミュニケーションの方法を工夫する	言い換えたり、身振りなどでコミュニケーションを続けられる	話が途切れ、続けることができない
b. 背景理解	相手の知識や背景を踏まえて伝えたいことを伝えられる	相手の知識や背景を踏まえて話し方や内容を工夫している	相手の知識や背景を意識して話している	自分の話したいことだけを話している
c. 手段	状況や目的に応じた適切な手段を選択している	SNSやテレビ会議を使ってコミュニケーションすることができる	SNSやテレビ会議でコミュニケーションできることを知っている	口頭や文章以外のコミュニケーション手段を知らない
4) 中国語（外国語や日本語）を使って、他の人と意見を調整し、コラボレーションすることができる				
a. ディスカッション	自分の意見と他の人の意見をくらべ、解決策を見出す	自分の意見と他の人の意見をつなげて話し合うことができる	自分の意見を出し、他の人の意見も聞くことができる	自分の意見を出せない。あるいは他の人の意見を聞けない
b. 協同作業	協同作業に必要な役割を考え、メンバーに提案することができる	自分の役割に加え、他のメンバーをサポートできる	自分の役割をはたしている	自分の役割を十分にはたせていない

＊四つの目標を、さらに2～3の具体的な項目に分けている。この表は年間目標の確認だけでなく、生徒それぞれの現状や変化の様子、今後の具体的な目標を定期的に確認するために、生徒本人と教師がチェックリストとして使用する（ルーブリック）。

に台湾の高校生に向かってプレゼンテーションします。後半は、台湾の高校生と混合のグループに分かれ、インターネットを使って中国語でやりとりしながら、グループのキャラクターづくりや、グループキャラクターを主人公にした学校紹介写真の交換、それらの写真を使った映像づくりに取り組んでいきます。

2) 必要な表現を自分たちで考える

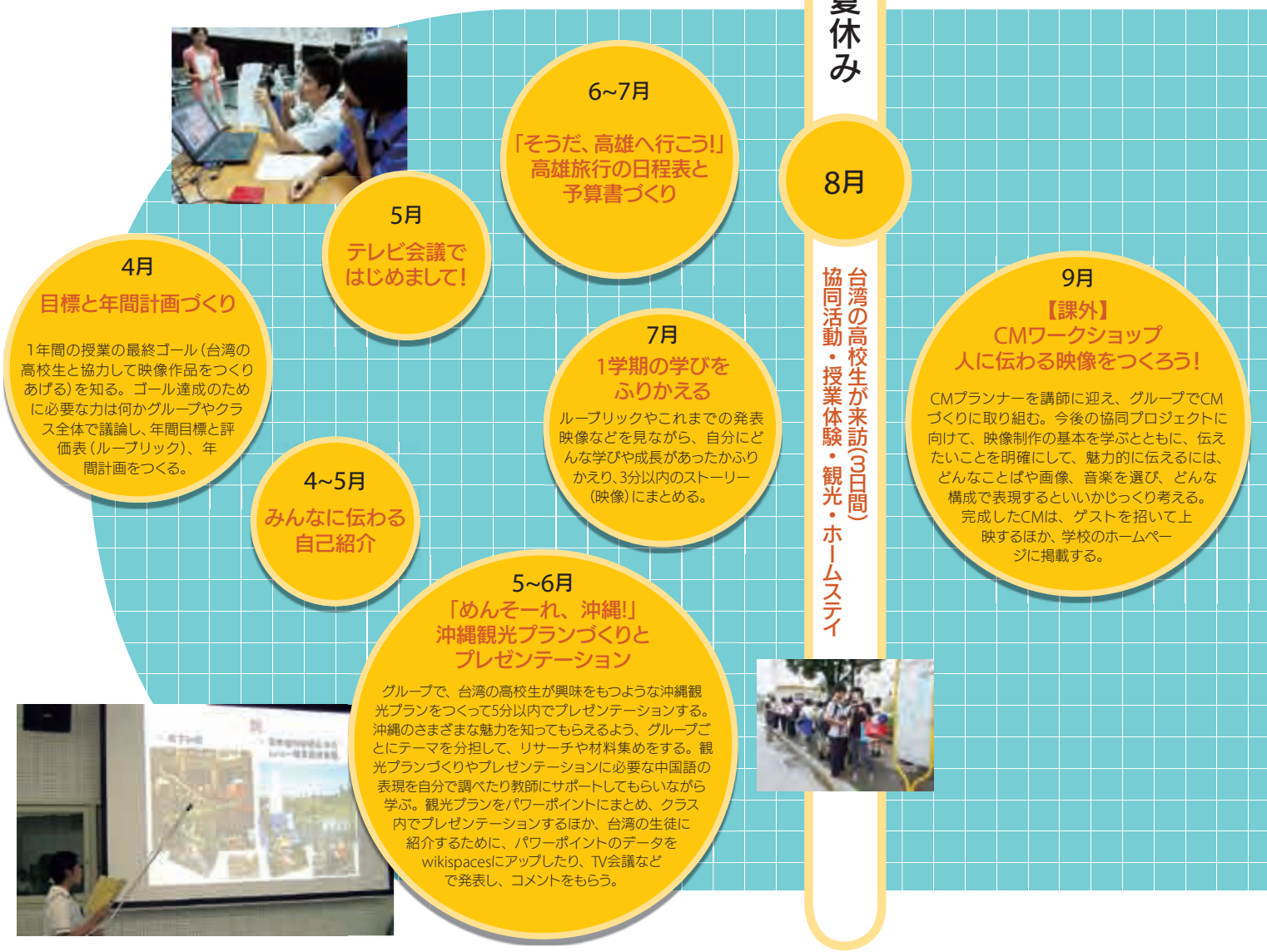
2013年度は、中国語の学習をコラボレーション活動にこれまで以上にしっかりリンクさせることを重視しています。中国語の教科書はほとんど使わず、自己紹介や観光案内の発表、キャラクター案のプレゼンテーション、学校紹介など、それぞれの活動でどんなことをいいたいか、どんな表現が必要になるかをまず生徒に考えてもらい、生徒から出てきた表現を中心に、教師が文型や語彙などを補足しながら授業を進めていきます。コラボレーションに必要な中国語の語彙・表現を学ぶ時間もあります。この場合も、前半のクラスメートとのコラボレーションをふまえて、相手に同意したいとき、相手と違う提案をしたいとき、相手に自分の役割を果たすよう促したいときなど、どんな場面ややりとりがあったか、これから台湾の人たちとコラボレーションするときにどんな場面が想定されるか生徒自身に考えさせ、そこから必要な文型や語彙を抽出して学習につなげます。また、台湾の生徒と話すときだけでなく、クラスメートとの話し合いでも中国語を使う習慣を徐々につけさせていきます。

3) 1年後に身についたもの

生徒は一人ひとり、一つの活動が終わるごとに、表2を使って、目標をどのくらい達成したか、次にチャレンジすることは何かを確認します。また、3月には、1年をふりかえって自分がどう変化したと思うか、クラス内で共有する時間をもっています。

これまで、「コラボレーションについては、自分のことだけでなく相手の状況や理解度、感情も配慮して話したほう

表3　沖縄県立向陽高等学校での実践活動（2013年度）



が伝わることを知った」「意見が違っても面倒くさがらずに伝えて互いに納得できるポイントを探すようになった」「自分の役割を果たすだけでなくほかのメンバーをサポートできるようになった」などの点があがりました。

中国語学習については、「自分に必要だから学んでいると意識するようになった」「中国語の歌やドラマを使うなど自分で学び方を工夫するようになった」という生徒もいます。ある生徒は、「日本語でいいたいことにあてはまる中国語がわからないとき、前は柔軟性がなくてそこで話が終わっていたが、今はあきらめずに、違う表現に言い換えたり、身振りを使って伝えようとするようになった」と語っていました。

台湾の高校生とのやりとりや映像の制作など、ICTを使用する活動が多いこともあり、授業だけでなく自分のコミュニケーションの道具としてテレビ会議などを使うようになったという生徒も少なくありません。その後も、多くの生徒がfacebookなどで台湾の生徒と連絡を取り続けているようです。

2年生が始まったころには自分の意見をいえずに黙り込んでいたような生徒たちが、1年間の活動を終えるころにはずいぶん自主的に行動できるようになります。担当の先生によると、3年生の授業で取り組む中国語ドラマの主題歌のプロモーションビデオづくりでは、先生が指示をしなくても、映像の内容にこだわって議論を重ね、役割分担とスケジュールを決め、ロケに出かけ、カラオケボックスで声を録音し、学校のコンピュータ室を予約して映像を完成させているそうです。

今後は、交流のなかでコラボレーションをさらに深めていくためにどのように活動や授業をデザインすればいいか、関心をもつ方々と考える場をつくっていきたいと思います。

事務局長　水口景子

9~10月
【台湾との協同プロジェクト】グループのキャラクターを決めよう！
各校2人ずつ4人程度のグループに分ける。グループ内で、1人ずつ考えてきたキャラクター案を発表し、一つにしぼる。クラス内で発表し、アドバイスをもらったり、自分たちの発表映像を見て内容を改善したあと、プレゼンを録画しwikispacesにアップする。台湾側も同様の作業をする。グループごとに、日本側、台湾側のプレゼンを見て、インターネット上でディスカッションしながらどちらかのキャラクターを選ぶ。

11~12月
台湾訪問に向けて：ホストファミリーとの生活、学校生活、外出先での会話ができるようになろう

冬休み

12月
台湾高雄市の相手校を訪問（4日間）
協同活動・授業体験・観光・ホームステイ

1~2月
【台湾との協同プロジェクト】わたしたちの学校生活を楽しく紹介する映像をつくろう！
ほかの学年やクラスの生徒に、2校の様子を楽しみながら知ってもらうために、これまでに集まったキャラクター入り学校紹介の写真を使って3分以内のストーリー(映像)をつくる。ストーリーはキャラクターを主人公にして組み立て、中国語版と日本語版をつくる。ほかの向陽高校の生徒に見せてコメントをもらうほか、wikispacesにアップして台湾の生徒にも見てもらう。TV会議で台湾の生徒からコメントをもらう。

9~12月
協同活動に必要な語彙・表現を学ぼう
グループのキャラクターづくりから学校紹介の写真交換までの活動内容にあわせて、キャラクターを表現する語彙や文型のほか、質問・確認・依頼・提案・催促などの場面でのやりとりを想定し、必要な語彙・文型を学ぶ。

10~12月
【台湾との協同プロジェクト】学校生活を楽しく伝えあおう！
グループごとに、自分の学校の特徴やおもしろいところ、不思議なところ、先生や生徒など、いろんな写真をグループのキャラクターを入れて撮る。中国語のキャプションをつけてwikispacesにアップし、互いの写真作品にコメントをしあう。

2~3月
1年間の学びをふりかえる

12月
2学期の学びをふりかえる

2012年度の主要事業をふり返る

2012年度は定期事業のほか、『好朋友』のカリキュラムづくり、『外国語学習のめやす』市販版の発行、新規事業である日韓の中高校生交流プログラム「SEOULで댄스・댄스・댄스(ダンス・ダンス・ダンス)」を計画通り実施しました。また、多くの方からいただく共感を力に変えるために、facebookに公式ページを開設、コラボレーター制度の導入など、ファンドレイジングにも取り組みました。

『好朋友』の活用をサポート

2012年8月に遼寧省大連市、10月に黒龍江省ハルビン市で、中高校の日本語教師を対象に研修を実施しました。参加者は小人数のグループに分かれ、研修開催地の近くに暮らす日本人に日本語でインタビューして、日本語で発表するプロジェクト型学習を体験しました。参加した先生の多くは、TJFが大連教育学院と共同で制作した日本語教材『好朋友ともだち』(全5巻)を使っています。

『好朋友』が提唱する学習者参加型の授業を実際に体験し、授業に活用してもらうことを研修の目標としました。さらに地元の日本人へのインタビューで教室と地域社会を結び、今後の授業に役立ててもらうこともねらいとしました。参加した先生方は身近に多くの日本人が暮らしていることを初めて知り、異文化のなかで一所懸命に生きる姿に感動したようでした。

インタビューに夢中になり、気がついたら予定時間をオーバー。

一方、インタビューされた日本人は地域の中高校生がこんなにたくさん日本語を学んでいるのかと驚き、できることがあれば協力したいと話していました。プロジェクト型学習を体験した先生方からは、グループで協力して活動することの良さがわかったので新学期から試してみたいと声が上がりました。〔→主要事業データp.24〕

初めてパワーポイントを使って発表。

研修で体験したグループ活動を生徒にも体験させたいと、多くの参加者が感想を述べた。

『好朋友』を使った先生方の評価を受けて、TJFはこの教材を東北三省に限らず、中国全土に広めていくことをめざしています。2013年1月に北京の外語教学与研究出版社から市販版が出版されたことはその大きな一歩となりました。中国では英語を必修とする中高校で、第二外国語の導入を検討するケースが増えています。第二外国語の授業で用いることを想定してつくられた『好朋友』はストーリーマンガを中心に据え、中高校生が興味をもちやすい構成にしていることから、より多くの学校で使われることを願っています。

2月には、『好朋友』を使って授業を行っている東北三省の教師のなかから、各省の教研員(指導主事)が推薦した先生5人を日本に招聘し、カリキュラム開発に取り組んでもらいました。『好朋友』は、文法の説明が一切ないため、文法積み上げの授業に慣れている先生方にさまざまな活用例を提示することが必要だと考えたからです。このカリキュラム開発は2013年度も継続して行い、年度内にウェブサイトに掲載し広く共有する予定です。〔→主要事業データp.24〕

『好朋友』のカリキュラムづくりに取り組む中国の先生方。人とつながる日本語の学びをめざした授業に『好朋友』をどのように活用すればよいか議論。

教育リーダーへの働きかけ

東北三省で日本語教育を普及するために、10月に黒龍江省の教育リーダーや日本語教育実施校の校長を招聘し、日本の教育関係者との交流などを通じて理解を深めてもらう機会を設けました。日本語を開講するかどうかは校長や地区のリーダーの意向に大きく左右されます。これまでに来日した校長の学校で日本語が開講されたり、課外活動として日本語クラブが設けられたりと招聘の効果は確実に上がっています。

〔→主要事業データp.24〕

教育代表団から贈られた旗。「これからも、顔の見える関係のなかで、ともに両国の架け橋になっていこう」という温かい友情が込められていた。左は張石煥氏・黒龍江省教育学院日本語指導主事。

本語を学ぶ機会を提供するために使われています。

メナーシャは幼稚園から高校まで一貫した日本語カリキュラムをもっており、米国でも有数の充実した日本語教育を行っている地域です。しかし、税金を投じて日本語教育を行うことの是非に市民が発言力をもつため、それがどのように子どもたちの成長に寄与し、地域住民にどれだけの恩恵をもたらすかを示す必要があります。今回の交流によって地域の人たちにアピールできたのは大きな成果でした。

メナーシャ高校の生徒が描いたオリジナルキャラクター。

日米の生徒間交流を支援

2013年2月、米国ウィスコンシン州メナーシャ合同学区が明徳義塾高等学校(高知県)のマンガ部の生徒2人とコーチを務めるマンガ家1人をメナーシャに招きました。同学区と明徳義塾高校との交流は、2012年4月にTJFの仲介で始まりました。3人は2週間ホームステイしながら、中学校と高校でマンガの描き方講座を開いたり、マンガについて中高校生たちと語り合って交流しました。

また、地域の人たちにも楽しんでもらおうと高校の図書館で一般公開イベントが行われました。中高校生200人が講座で描いたキャラクターの絵を飾ったり、日本食や折り紙、マンガ描きなどの日本文化体験コーナーを設けた会場は100人近い来場者で賑わいました。

このプログラムは、(株)講談社による「野間佐和子記念寄附金」で実現しました。この寄付は2011年度から3年度にわたって行われるもので、今回の交流のほか、これまでに日本語オンライン講座を開設するなど学校外でも多くの人が日

マンガを描いて見せながら道具の使い方を説明する明徳義塾高校マンガ部の生徒。「高校生マンガアーティスト」にメナーシャの生徒たちの目は釘づけだった。

ウェブサイトで日本の情報を発信

日本情報発信サイト「くりっくにっぽん」の日本語版、英語版、中国語版をリニューアルしました。さらに、韓国は日本語を学ぶ中高校生が世界でも多い国であること、これまでにも韓国語で読みたいという声があったこと、TJFが大事にしている言語のひとつでもあることから、韓国語版を新設しました。インターネットでさまざまな情報にすぐにアクセスできるようになった今日、TJFとして何を発信すべきか検討を重ねた結果、ネットを検索してもなかなか入手できない情報、人の内面にフォーカスすることにしました。そこでコーナーをすべて見直しました。

日本で話題のテーマに関わる人たちの考えや生き方に迫るインタビューコーナー「My Way Your Way」、日本の高校

www.tjf.or.jp/clicknippon

生・大学生レポーターが伝統行事や学校行事、記念日などをどのように過ごしているかを自分のことばでつづる「1/365」(365分の1)、旅行や留学で日本にやってきた海外の若者が面白いと思ったニッポンを写真1枚とキャプションで紹介する「何これ?マジコレ!?」を新設しました。

このほか、「先生コーナー」で日本語教育を通じてさまざまな力を生徒に身につけさせる授業を行っている教師のエッセイを掲載したり、くりっくにっぽんのコンテンツを活用した授業のアイディアなどを紹介しています。

さらに明治大学のゼミと連携し、「My Way Your Way」の特集2本「人に気持ちを伝えるデコ」「アイドルの力」を学生たちと企画、制作する実験カリキュラムも実施しました。コンテンツの制作を通じて「日常を少し深く考えたり、ほかの人はどうだろうと考えたりするようになった」「自分がいかに『ステレオタイプ』にとらわれていたかということに気づかされた」などの感想が寄せられました。今後、「くりっくにっぽん」をさらに刺激的なサイトにしていきます。

「学習のめやす」の新たな展開

2012年3月に『外国語学習のめやす2012　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を5,000部発行し、中国語・韓国語教育関係者を中心に無料配布しました。配布終了後も入手希望の声が多かったため、授業づくりにすぐに活用できるコミュニケーション能力指標をブック・イン・ブックにまとめ、これを取り外せるようにした『外国語学習のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を3,000部発行し、販売し始めました。英語、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、日本語、フランス語、ロシア語など各言語の教育に携わる多くの方々にお買い求めいただき、「学習のめやす」への関心が広がっていることを実感しています。

〔→主要事業データp.24〕

さらに多くの教師に活用してもらうことをめざし、6月に「実践サポートめやすWeb」をオープンし、「学習のめやす」を活用した単元案や実践例を掲載しました。また、その理念を広く共有するために教師研修を2009年度から毎夏、東京で開催しています。2012年度は初めて大阪で開催し、以前から要望の強かった「学習動機と学習効果を高める評価」をテーマにしました。主任講師で「学習のめやす」の監修者でもある當作靖彦氏(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)は、「よいテストはよい学習者をつくる、よいテストはよい教師をつくる」と評価の重要性を繰り返し説かれています。5日間の研修の前半は、すべての外国語の教師を対象に當作氏が講義を行い、後半は韓国語教師と中国語教師を対象にワークショップを行いました。

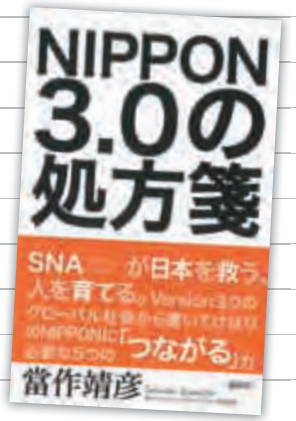
ワークショップで実際に評価づくりに取り組んだ参加者から、「外国語だけでなく他の教科にも使える。学校に戻ったら美術の先生にも伝えたい」とコメントが寄せられました。

〔→主要事業データp.24〕

研修の全国展開に向けて

今後、全国各地でワークショップ型の「学習のめやす」研修を開催することを考えています。そのためには多くの講師が必要です。「学習のめやす」の考え方を共有し、いっしょに全国に展開していける講師の育成を図るべく「めやすマスター研修」を2013年度に実施します。2012年度はそのカリキュラムを作成するとともに、試験的にJAKEHS(高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク)と共催で実践ワークショップを行いました。

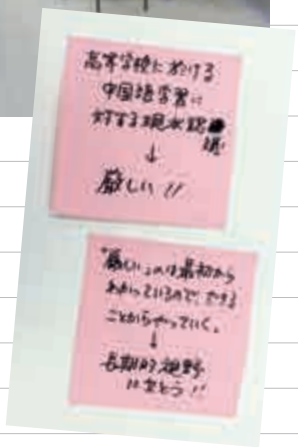
「学習のめやす」はもともと高校の中国語と韓国語の教育指針づくりとして始まりましたが、その理念や目標はすべての外国語教育にも適用できます。新しい外国語教育をめざし大きな波を起こすためにも、中国語と韓国語だけでなくすべての言語に、そして全国に広げていきたいと考えています。



装幀：菊地信義

さらに、當作氏が「学習のめやす」の理論的根拠となるソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)をテーマに講談社から2013年7月に刊行した『NIPPON3.0の処方箋』の編集に協力しました。この書籍がより多くの人に読まれ、「学習のめやす」への理解が広まることを期待しています。

生徒の意欲向上、教員の確保、交流の機会の創出など多岐にわたって活発な意見交換を行った。



出された課題に対して、他のグループから感想や解決策が書き込まれた。

隣国のことばを学ぶ場づくり

日本語を学ぶ中高校生は中国で8万9,000人、韓国では69万人に上る一方、日本で中国語を学ぶ高校生は約2万2,000人、韓国語は約1万1,000人しかいません(いずれも2012年調査)。この背景には、中国語と韓国語の授業を開講する学校がまだまだ少ないことがあります。学習者を増やすためには、教育行政関係者や校長などリーダーへ働きかけ、両言語の授業を開講する学校を増やすこと、学校外でも学べる場をつくることが必要だと考え、以下の事業を行っています。

(1)中国語教育や中国との交流に関心をもっている学校の責任者や教育行政関係者の中国へ派遣
(2)中国語教師を対象とする中国研修を共催
(3)他機関の協力を得て中国語・韓国語講座を開催

(1)については、中国国家漢弁(漢弁)主催、TJF企画・実施で2008年度から行っており、中国を訪問した関係者は59人に上っています。2012年度は漢弁の都合により延期となり再開のめどがたたなかったため、この事業の重要性に鑑み、2013年度はTJF主催の事業として実施することにしました。

(2)は2004年度より吉林大学(中国長春市)で、文部科学省、中国国家教育部、漢弁とTJFの共催で研修を行っています。2012年度は定員を上回る22人の応募があり、全員が参加しました。〔→主要事業データp.24〕

この研修は当初5ヵ年計画で始まりました。ニーズが高く、その後も実施してきましたが、9年間で延べ157人の中国語の先生方が参加したこと、漢弁がさまざまな研修プログラムを提供するようになったことから、この事業は2012年度をもって一旦終了することにしました。今後は漢弁の研修プログラムを案内するとともに、漢弁の依頼を受けて、研修参加希望者が参加資格を満たしているかどうかをTJFが認定することになっています。

(3)についても引き続きさまざまな活動に取り組みました。まず駐日韓国大使館韓国文化院および駐日韓国文化院世宗学堂との共催で「中高生のための韓国語講座2012」を5月から2013年3月まで毎週1回開催しました。また、TJFが仲介して2011年度に実現した拓殖大学第一高等学校の課外の韓国語講座に引き続き協力しました。さらに桜美林大学孔子学院が主催する中国語講座に協力したほか、ISI国際学院と共催で「楽しく学ぼう! 中国語」を開講しました。TJFが実施している「日中高校生のサマーキャンプ」は中国語の既習者であることが参加条件のひとつになっていますが、他機関と協力して中国語講座を開くことは、学校に中国語講座がない高校生にもサマーキャンプ参加の道を開くことになります。〔→主要事業データp.24〕

上記のほかに、2012年度は新規事業として、(1)の参加者や中国語教育を実施している校長や管理職を対象に、「中国語教育取り組み校経験交流会」を12月に東京で開催しました。東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、岐阜、岡山から校長や教頭、外国語科や国際交流の担当主任を含めて22人が参加し、各校の中国語教育に関して成功体験や課題について活発に意見を交わしました。中国語教育に対する認識が低く現状は厳しいとの報告に対しては、長期的視野に立ってできることからやっていこうと自他を励ます声が聞かれました。また、ほかの高校の状況を初めて知り、自校の中国語教育の充実ぶりをこれからはもっとアピールしていきたいと語る校長もいました。他校の取り組みを知ることは、それぞれの新たな一歩につながります。
〔→主要事業データp.25〕

「Ringo」ウェブサイトで熱意ある取り組みを紹介

中国語・韓国語教育に関わる人たちの情報共有の場「Ringo」ウェブサイトに「校長の出番」コーナーを新設しました。最初に登場した千葉県立市川昴高等学校の前校長、齊藤孝先生は同校に中国語と韓国語教育を導入しました。新規開設するには「管理職が異文化理解の重要性を理解することと学校目標への位置づけが最も大切」だといいます。こうした体験談に勇気づけられ、中国語と韓国語の教育が各地に広がることを期待しています。

中国や韓国の文化を写真とエッセイで紹介する「注目の一枚」コーナーでは、何気ない日常を日本のそれと比較しながら紹介する写真が人気です。

コミュニケーション力と協働力を育成

「協働を生み出すプログラムの開発」事業の一環として、2011年度から沖縄県立向陽高等学校と協力してカリキュラムの開発と実践を行ってきました。同校の中国語の授業と台湾の高雄市立高雄高級工業職業学校（KIHS）との交流を一体化させ、協同活動を組み込んだものです。2012年度は、ルーブリックやポートフォリオなどの評価方法も導入しました。テレビ会議システムやSNSなどのソーシャルメディアを積極的に取り入れたほか、写真作品づくりや映像づくりでは、画像・映像編集やプレゼンテーションに必要なICTツールを活用しました。直接交流も行い、向陽高校の生徒がKIHSを訪問したり、KIHSの生徒が沖縄を訪問したりしました。

過去2年間のプロジェクトの成果を中国語教育学会と全国高等学校中国語教育研究会の合同大会等で発表しました。

〔→特集p.4、主要事業データp.25〕

つくりあげた作品をみんなの前で発表。映像効果や音楽にもこだわっていた。

「つながーる」から次のステップへ

ウェブサイト「つながーる」は、2007年度の開設以来、国際交流に関心のある国内外の中高校生、日本で外国語を学習している中高校生、海外で日本語を学習している中高校生が、母語や学習言語を使って、さまざまな背景をもつ人たちと知り合い、コミュニケーションする場を提供してきました。2012年度は、海外の日本語教育の授業の一環として利用するほか、TJFの交流事業である「日中高校生のサマーキャンプ」と「日韓の中高校生交流プログラム」の事前交流や準備学習の場として利用しました。

ここ数年、ソーシャルメディアが急速に発展し、さまざまなメディアを交流に利用できる環境が整いつつあることから、2007年度に開発した当時のシステムを使用する「つながーる」はすでに一定の使命を果たしたと判断し、2013年度内に事業を終了することにしました。本事業を通じて得られた関係者とのネットワーク、デジタルツールを学校に導入する際に必要なサポート、授業での活用方法などのノウハウは、「協働を生み出すプログラムの開発」事業に引き継がれています。

互いのことばを学ぶ日中の高校生の交流

7月23日～8月2日、長春市の日章学園高校を主会場に「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」を実施

サマキャン☆文化祭の企画を話し合う日中の高校生。

中国の高校生がつくった日本語の新聞を読む日本の高校生。

8月、2007年から2012年まで過去6回の参加者と引率教員が集まって同窓会を開催した。中国語を学ぶ現役高校生たちにとって、先輩たちの活躍する姿が大きな励みになった。

し、中国語を学ぶ日本の高校生86人(うち8人は東日本大震災特別枠で参加費等を免除)、日本語を学ぶ長春市の高校生53人が参加しました。会場となった高校の寮でいっしょに生活しながら、それぞれコミュニケーションに必要な中国語と日本語を学ぶ授業を受けました。それと並行して、日中混成のグループが、ゲストも参加して楽しめる「サマキャン☆文化祭」の企画・実施に取り組みました。メンバーから挙がってきた企画のアイディアについて、どれがいちばんいいかをグループで話し合っているときに、お互いのことばがわからずイライラしたり、そっぽを向いたりと険悪になることもしばしばあったようです。しかし、本番が近づいてくるため、どのグループも何とか意見を調整して作業を進めました。当日は、ゲストといっしょにダンスをしたり、折り紙で作ったカエルでレースをしたり、ホスト役の生徒もゲストもいっしょに楽しみました。

この事業は2007年度から毎夏実施していますが、日中関係の悪化から2013年度は漢弁が実施を見送りました。このプログラムが実施できるよう、TJFの主催を含めいろいろな可能性を探っていきたいと考えています。

〔→特集p.4、主要事業データp.25〕

K-POPダンス交流に手応え

中高校生の関心が高いK-POPダンスをテーマに、日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国の高校生の交流プログラムを秀林文化財団と共催して初めてソウルで実施しました。日本の参加者9人は、3回の事前研修で韓国語を学んだり、韓国の高校生といっしょに踊ることになっている少女時代の曲「I got a boy」のダンスを練習したり、プログラム参加中の目標を立てたりした後、4泊5日のソウルでの交流に臨みました。

自己紹介シートを真剣な表情でつくる。

ソウルでは、日韓混成9人ずつの2チームに分かれ、それぞれのチームで少女時代の同じ役を踊る2人がペアとなって、2万ウォン(約1,800円)以内で買ってきたTシャツや帽子、アクセサリーでドレスアップし「ファッション対決」をしました。

クライマックスは2チームによるダンス対決でした。両チームとも表現力豊かで、キレのあるダンスを披露しました。

これらの活動と並行して、コミュニケーションに役立つ韓国語の授業をソウル大学言語教育院の協力を得て実施しました。

帰国後、関係者を集めて開いた報告会で、参加者全員で「I got a boy」のダンスを披露するとともに、プログラムに参加する前と後の自分をふり返って報告し、「もっともっと韓国語を勉強したい」と今後の抱負を語っていました。

〔→主要事業データp.25〕

2013年度もK-POPダンスをテーマに、参加者数を日韓各16人に拡大し、両国の生徒が共同生活を送るプログラムへとヴァージョンアップして実施する予定です。

ダンス対決で優勝したチームの、帽子を投げて決めポーズ。

帰国後の報告会ではプログラム参加前と後で自分がどのように変わったか、成長を報告。

©オフィス写真部 佑木瞬

2013年度の新しい取り組み

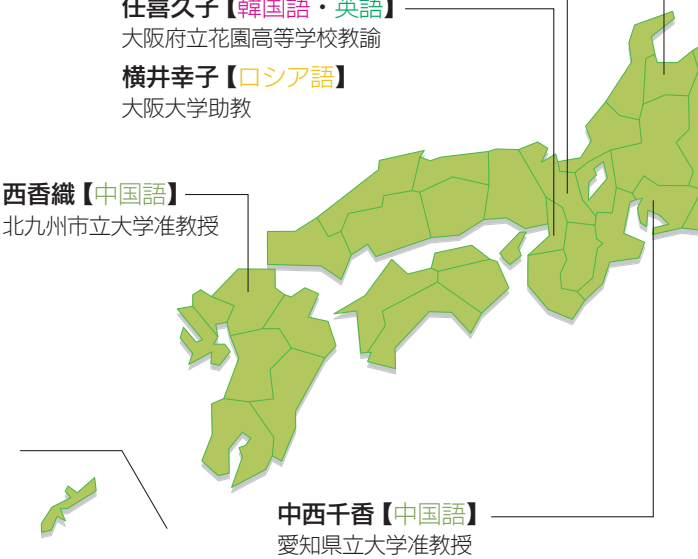
「りんご記念日」に次世代支援を

6月22日、26回目の創立記念日にTJFは「りんご記念日」寄付キャンペーンを開始しました。「多様なことばと文化にふれ、目をひらかれる喜びを若い人たちに体験してほしい」「ちがいを乗り越えていくしなやかさを伝えたい」そんな熱い想いを結集し、広くPRしていこうという企画です。キャンペーンウェブサイトのカレンダーで自分の「りんご記念日」を選んで、メッセージを投稿し、一口3,000円以上をTJFにご寄付いただくとメッセージが公開される仕組みです。

「りんご」は自分にとっての外国語、隣の人とつながるためのことばで、ことばや文化のちがいを体験したり、人と出会って周りの世界が違って見えるようになったりした日が「りんご記念日」です。TJFはこの日を「次の世代の人たちに同じ出会いを贈る日」にしたいと考えました。

財団法人日本青少年研究所が日米中韓の高校生を対象に行った調査によると、留学したいと回答した高校生は韓国が8割強なのに対し、日本は5割弱です。留学したくない理由として、「自分の国がもっとも暮らしやすい」「ことばの壁がある」「海外で暮らす自信がない」と回答しています。TJFが実施する交流プログラムに参加する高校生たちは、そうした気持ちを乗り越え自信をつけていきます。異なることばや文化の壁の前に立ちすくんでいたとしても、背中をほんの少し押されるだけで、より大きな世界に自ら一歩を踏み出していくのです。ご寄付はこうした機会づくりに使わせていただきます。

インターネットで「りんご記念日 TJF」と検索するか、
www.tjf.or.jp/ringokinenbiにアクセスしてください。
関心のある方は気軽にお問い合わせください。
E-mail : ringokinenbi@tjf.or.jp　担当：安藤



伊藤都章【英語】
北海道札幌西高等学校教諭

角谷昭美【ロシア語・英語】
富山県立志貴野高等学校教諭

田原憲和【ドイツ語】
立命館大学准教授

任喜久子【韓国語・英語】
大阪府立花園高等学校教諭

横井幸子【ロシア語】
大阪大学助教

西香織【中国語】
北九州市立大学准教授

中西千香【中国語】
愛知県立大学准教授

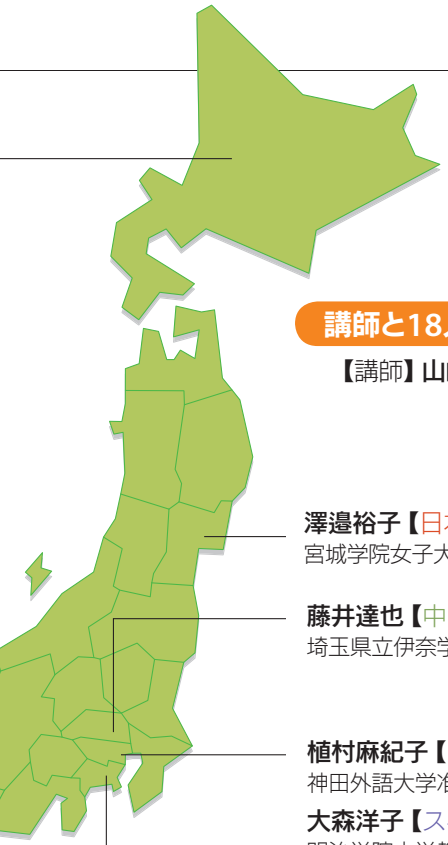
池谷尚美【ドイツ語】
横浜市立大学非常勤講師

山下誠【韓国語】
神奈川県立鶴見総合高等学校教諭

「めやす」カリキュラムデザイナー育成に向けての第一歩

TJFは2012年度、中国語と韓国語から外国語教育を変えようと『外国語学習のめやす』(以下、「めやす」)を世に送り出しました。「めやす」の基本理念や目標について、毎夏すべての外国語教師を対象にセミナーを開催してきましたが、まだまだ中国語、韓国語以外の先生方にまで十分広がっていません。また、クラスでの活用につなげるための実践も共有されていません。

この課題を解決するために、2014年度から全国各地ですべての外国語教師を対象に講座やワークショップを開設し、「めやす」を取り入れた授業づくりができる教員＝「めやす」カリキュラムデザイナーの養成を図る予定です。それに向け、



講師と18人のめやすマスター

【講師】**山崎直樹** 関西大学教授

澤邉裕子【日本語・韓国語】
宮城学院女子大学准教授

藤井達也【中国語】
埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭

植村麻紀子【中国語】
神田外語大学准教授

大森洋子【スペイン語】
明治学院大学教授

四宮瑞枝【スペイン語】
東京大学非常勤講師

田中祐輔【日本語】
早稲田大学大学院助手

中川正臣【韓国語・日本語】
目白大学非常勤講師

野澤督【フランス語】
慶應義塾大学非常勤講師

阪堂千津子【韓国語】
東京外国語大学非常勤講師

2013年度はまずカリキュラムデザイナーを育成する講師となりうるマスターティーチャーの研修を実施することになりました。これまでも「学習のめやす」の開発や研修に関わった関西大学の山崎直樹教授を講師に迎え、8言語18人が切磋琢磨しています。今後は、テキストとなる教本づくり、研修の受講が資格の取得につながるような仕組みづくりにも取り組んでいきます。

主要事業カレンダー

2013年

4月
- 『国際文化フォーラム通信』第98号「人をつなぐ『ともだち』日本語」を発行
- 「協働を生み出すプログラムの開発」事業の一環として、コミュニケーション力とコラボレーション力の育成をめざした外国語のカリキュラムを専門家とともに作成。沖縄県立向陽高等学校の協力を得て、同校国際文科中国語コース2年生を対象に実施〔～2014年3月／沖縄〕
- 明治大学国際日本学部2年演習A（横田ゼミ、毎週火曜日）のカリキュラムを共同作成〔～2014年1月／東京〕
- 『NIPPON3.0の処方箋』（當作靖彦著、講談社刊）の編集に協力〔～6月〕

5月
- 「中高生のための韓国語講座2013」を駐日韓国大使館韓国文化院、同世宗学堂と共催〔毎週土曜日、～2014年3月／東京〕

7月
- 「グローバル時代の人材育成セミナー」を実施〔7月7日／札幌〕
- 『国際文化フォーラム通信』第99号「ここにある危機」を発行

8月
- 「外国語教育セミナー」を実施〔8月4日／大阪、8月10日／東京〕
- めやすマスター研修を実施〔8月4～8日／大阪、兵庫〕
- サマキャン同窓会を実施〔8月10日／東京〕
- 東北三省日本語教師研修を実施〔8月18～20日／中国長春市〕
- 教育代表団中国派遣を実施〔8月20～24日／中国長春市〕
- 「協働を生み出すプログラムの開発」の一環として沖縄県立向陽高等学校と台湾の高雄高級工業職業学校の交流プログラムを企画。高雄高級工業職業学校の教師を招聘〔8月21～25日／沖縄〕

9月
- 千葉県高等学校教育研究会中国語部会による高校生向け中国語講座を共催〔毎週土曜日、～12月／千葉〕

10月
- 沖縄県教育委員会主催の外国語科・国語科担当教員向けワークショップ「高度の思考力を養う読解活動」に共催〔10月10日／沖縄市〕
- 日本語教育学会秋季大会で『外国語学習のめやす』説明会を開催〔10月13日／大阪〕
- 「外国語教育セミナー」を中国語教育学会、福岡韓国朝鮮語教育研究会と共催〔10月14日／福岡〕

11月
- 『国際文化フォーラム通信』創刊100号記念号を発行

12月
- めやすマスター課題発表会〔12月7～8日／彦根市〕
- 中国語・中国理解教育取り組み校経験交流会を実施〔12月22日／東京〕
- 「日韓 中高生交流プログラム SEOULで댄스・댄스・댄스（ダンス・ダンス・ダンス）2013」を実施〔12月25～30日／韓国ソウル市〕

2014年

2月
- 中国華東地域日本語教師研修を開催〔中国上海市〕

2012年度の決算報告

貸借対照表

2013年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資 産 の 部			
1　流動資産			
現金預金	27,873,455	12,521,458	15,351,997
未収収益	5,979,912	5,461,524	518,388
前払金	133,399	0	133,399
前払費用	1,489,827	1,516,813	△ 26,986
仮払金	933,700	517,040	416,660
貯蔵品	1,732,640	0	1,732,640
流動資産合計	38,142,933	20,016,835	18,126,098
2　固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	300,000,000	300,000,000	0
投資有価証券	1,700,000,000	1,700,000,000	0
基本財産合計	2,000,000,000	2,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	30,764,595	28,130,647	2,633,948
事業運営引当預金	80,092,884	55,044,240	25,048,644
育児介護雇用安定等引当預金	397,453	397,375	78
メナーシャ市日本語教育促進事業引当預金	0	136,060	△ 136,060
学習のめやす出版引当預金	0	294	△ 294
特定資産合計	111,254,932	83,708,616	27,546,316
(3) その他固定資産			
建物付属設備	3,397,825	3,651,047	△ 253,222
什器備品	920,838	1,550,466	△ 629,628
電話加入権	290,400	290,400	0
敷金	9,226,915	9,226,915	0
その他固定資産合計	13,835,978	14,718,828	△ 882,850
固定資産合計	2,125,090,910	2,098,427,444	26,663,466
資産合計	2,163,233,843	2,118,444,279	44,789,564
Ⅱ 負 債 の 部			
1　流動負債			
未払金	1,183,409	2,551,385	△ 1,367,976
未払費用	474,103	417,415	56,688
預り金	1,723,174	1,692,927	30,247
リース債務	503,243	547,321	△ 44,078
賞与引当金	4,214,801	3,163,600	1,051,201
流動負債合計	8,098,730	8,372,648	△ 273,918
2　固定負債			
リース債務	349,628	840,067	△ 490,439
退職給付引当金	30,976,590	28,685,283	2,291,307
固定負債合計	31,326,218	29,525,350	1,800,868
負債合計	39,424,948	37,897,998	1,526,950
Ⅲ 正 味 財 産 の 部			
1　指定正味財産			
民間助成金	397,453	533,729	△ 136,276
寄付金	2,080,092,884	2,055,044,240	25,048,644
指定正味財産合計	2,080,490,337	2,055,577,969	24,912,368
(うち基本財産への充当額)	(2,000,000,000)	(2,000,000,000)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(80,490,337)	(55,577,969)	(24,912,368)
2　一般正味財産	43,318,558	24,968,312	18,350,246
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	2,123,808,895	2,080,546,281	43,262,614
負債 及び 正味財産合計	2,163,233,843	2,118,444,279	44,789,564

正味財産増減計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減	備考
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益				
基本財産受取利息	43,318,499	35,880,120	7,438,379	
特定資産運用益				
特定資産受取利息	6,973	7,315	△ 342	
受取会費				
賛助会員受取会費	10,550,000	10,570,000	△ 20,000	
事業収益				
事業収益	9,370,675	10,429,027	△ 1,058,352	派遣事業中止により減少
受取補助金等				
受取民間助成金	7,916,385	13,460,212	△ 5,543,827	助成対象出版事業が終了
受取寄付金				
受取寄付金	90,282,000	78,146,417	12,135,583	
雑収益				
雑収益	10,024	12,736	△ 2,712	
経常収益計	161,454,556	148,505,827	12,948,729	
(2) 経常費用				
事業費	119,937,404	130,334,305	△ 10,396,901	
役員報酬	0	4,923,624	△ 4,923,624	常勤理事退任により減少
給料手当	46,543,778	47,655,679	△ 1,111,901	ｽﾀｯﾌ1名2月退職＋新規採用なし
賞与引当金繰入額	3,463,801	2,642,467	821,334	
退職給付費用	2,215,032	4,307,944	△ 2,092,912	
臨時雇賃金	920,195	401,640	518,555	
福利厚生費	7,014,152	7,246,351	△ 232,199	
会議費	2,660,107	4,532,838	△ 1,872,731	
渉外費	416,067	279,616	136,451	
旅費交通費	18,843,538	18,392,734	450,804	
通信運搬費	3,070,576	3,161,638	△ 91,062	
減価償却費	624,033	777,764	△ 153,731	
消耗品費	3,801,014	2,923,390	877,624	
図書研究費	256,668	16,505	240,163	
修繕費	597,870	15,750	582,120	
編集出版費	11,202,754	9,280,728	1,922,026	
光熱水料費	541,237	515,202	26,035	
賃借料	9,696,288	9,995,130	△ 298,842	
保険料	1,417,436	1,480,993	△ 63,557	
諸謝金	2,917,439	8,159,424	△ 5,241,985	科目を諸謝金から編集出版費に変更
租税公課	1,400	0	1,400	
支払会費	554,600	270,374	284,226	
支払負担金	0	1,271,000	△ 1,271,000	遼寧日本語教科書昨年で終了
支払寄付金	2,112,215	1,395,476	716,739	
支払利息	48,606	93,836	△ 45,230	
委託費	1,008,643	565,746	442,897	
雑費	9,955	28,456	△ 18,501	
管理費	23,313,965	23,809,849	△ 495,884	
役員報酬	2,108,887	3,283,776	△ 1,174,889	常勤理事退任により減少
給料手当	10,117,560	9,644,178	473,382	
賞与引当金繰入額	751,000	521,133	229,867	
退職給付費用	949,300	551,840	397,460	
臨時雇賃金	38,160	47,330	△ 9,170	
福利厚生費	1,605,496	1,674,112	△ 68,616	
会議費	113,198	494,994	△ 381,796	
渉外費	119,086	113,623	5,463	
旅費交通費	204,930	170,327	34,603	
通信運搬費	233,561	529,511	△ 295,950	
減価償却費	251,141	291,665	△ 40,524	
消耗品費	294,866	347,395	△ 52,529	
図書研究費	155,284	147,720	7,564	
修繕費	374,430	259,213	115,217	
編集出版費	19,561	22,260	△ 2,699	
光熱水料費	200,179	171,927	28,252	
賃借料	3,586,557	3,319,698	266,859	
保険料	80,320	127,624	△ 47,304	
諸謝金	113,916	256,327	△ 142,411	
租税公課	73,600	180,800	△ 107,200	
支払会費	123,312	125,624	△ 2,312	

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減	備考
支払利息	18,264	31,523	△ 13,259	
委託費	1,506,157	1,187,754	318,403	
雑費	275,200	309,495	△ 34,295	
経常費用計	143,251,369	154,144,154	△ 10,892,785	
評価損益等調整前当期経常増減額	18,203,187	△ 5,638,327	23,841,514	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	18,203,187	△ 5,638,327	23,841,514	
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
過年度損益修正				
前期損益修正益	204,657	85,715	118,942	
経常外収益計	204,657	85,715	118,942	
(2) 経常外費用				
固定資産売却損				
什器備品除却損	57,598	0	57,598	
経常外費用計	57,598	0	57,598	
当期経常外増減額	147,059	85,715	61,344	
当期一般正味財産増減額	18,350,246	△ 5,552,612	23,902,858	
一般正味財産期首残高	24,968,312	30,520,924	△ 5,552,612	
一般正味財産期末残高	43,318,558	24,968,312	18,350,246	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
受取補助金等				
受取民間助成金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
基本財産運用益				
基本財産受取利息	43,318,499	35,880,120	7,438,379	
特定資産利息				
受取利息（民間助成金分）	109	641	△ 532	
受取利息（寄付金分）	8,644	4,240	4,404	
受取寄付金				
受取寄付金	115,040,000	115,040,000	0	
一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	133,454,884	117,630,749	15,824,135	
当期指定正味財産増減額	24,912,368	34,294,252	△ 9,381,884	
指定正味財産期首残高	2,055,577,969	2,021,283,717	34,294,252	
指定正味財産期末残高	2,080,490,337	2,055,577,969	24,912,368	
Ⅲ 正味財産期末残高	2,123,808,895	2,080,546,281	43,262,614	

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記
該当する事項はありません。

2. 重要な会計方針
重要な会計方針は次のとおりである。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券
…… 購入時の取得価額によっている。(償却原価法については、取得価額と債券金額との差額について重要性に乏しいため、適用していない。)

(2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産及び無形固定資産
…… 定額法によっている。

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
…… 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

(3) 引当金の計上基準
賞与引当金
…… 職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

退職給付引当金
…… 職員の退職給付の支給に備えるため、期末自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(4) リース取引の処理方法
所有権移転ファイナンス・リース取引については、売買処理を行う。所有権移転外ファイナンス・リース取引については、原則として売買処理を行うが、重要性に乏しい場合には、通常の賃貸借取引に準じた会計処理を行っている。

(5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金				
自由金利型定期預金	300,000,000	0	0	300,000,000
投資有価証券				
三菱UFJセキュリティーズINTL PRD債	500,000,000	0	0	500,000,000
ジェッツINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	0	0	500,000,000
第19回三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債(劣後特約付)	200,000,000	0	200,000,000	0
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ NO. 26366	200,000,000	0	0	200,000,000
オーストラリア コモンウェルス銀行 リバースデュアル債	300,000,000	0	0	300,000,000
SMBC日興證券 固定利付債 0361-9088	0	200,000,000	0	200,000,000
小　計	2,000,000,000	200,000,000	200,000,000	2,000,000,000
特定資産				
退職給付引当預金	28,130,647	3,506,973	873,025	30,764,595
事業運営引当預金	55,044,240	115,048,644	90,000,000	80,092,884
育児介護雇用安定等引当預金	397,375	78	0	397,453
メナーシャ市日本語教育促進事業引当預金	136,060	31	136,091	0
学習のめやす出版引当預金	294	0	294	0
小　計	83,708,616	118,555,726	91,009,410	111,254,932
合　計	2,083,708,616	318,555,726	291,009,410	2,111,254,932

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
定期預金				
自由金利型定期預金	300,000,000	(300,000,000)	－	－
投資有価証券				
三菱UFJセキュリティーズINTL　PRD債	500,000,000	(500,000,000)	－	－
ジェッツINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	(500,000,000)	－	－
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ　NO. 26366	200,000,000	(200,000,000)	－	－
オーストラリア　コモンウェルス銀行　リバースデュアル債	300,000,000	(300,000,000)	－	－
SMBC日興證券　固定利付債　0361-9088	200,000,000	(200,000,000)	－	－
小　　計	2,000,000,000	(2,000,000,000)	－	－
特定資産				
退職給付引当預金	30,764,595	－	－	(30,764,595)
事業運営引当預金	80,092,884	(80,092,884)	－	－
育児介護雇用安定等引当預金	397,453	(397,453)	－	－
小　　計	111,254,932	(80,490,337)	-	(30,764,595)
合　　計	2,111,254,932	(2,080,490,337)	－	(30,764,595)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	4,263,000	865,175	3,397,825
什器備品	5,119,440	4,198,602	920,838
合　　計	9,382,440	5,063,777	4,318,663

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

（単位：円）

種類及び銘柄	帳簿価額	時　　価	評価損益
三菱UFJセキュリティーズINTL　PRD債	500,000,000	480,300,000	△ 19,700,000
ジェッツINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	502,170,000	2,170,000
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ　NO. 26366	200,000,000	197,740,000	△ 2,260,000
オーストラリア　コモンウェルス銀行　リバースデュアル債	300,000,000	296,052,000	△ 3,948,000
SMBC日興證券　固定利付債　0361-9088	200,000,000	193,500,000	△ 6,500,000
合　　計	1,700,000,000	1,669,762,000	△ 30,238,000

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
民間助成金						
育児・介護雇用安定等	(財)21世紀職業財団	397,375	78	0	397,453	指定正味財産
メナーシャ市日本語教育促進	(社)尚友倶楽部	136,060	31	136,091	0	指定正味財産
高校中国語・韓国語の学習のめやす出版	(社)東京倶楽部	294	0	294	0	指定正味財産
中国における二外日本語教育推進事業	(公財)三菱UFJ国際財団	0	2,500,000	2,500,000	0	
好朋友Web制作	(社)尚友倶楽部	0	1,260,000	1,260,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	中国駐日大使館教育処	0	800,000	800,000	0	
中国日本語教師教育代表団招聘	(公財)三菱UFJ国際財団	0	800,000	800,000	0	
好朋友Web制作	(公財)三菱UFJ国際財団	0	700,000	700,000	0	
日中の高校生サマーキャンプの実施	中国駐日大使館教育処	0	500,000	500,000	0	
日韓中高校生ダンス交流	秀林文化財団	0	500,000	500,000	0	
日中の高校生サマーキャンプの実施	双日国際交流財団	0	300,000	300,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	駐日韓国文化院 世宗学堂	0	300,000	300,000	0	
中国語教育取組校経験交流会	中国駐日大使館教育処	0	100,000	100,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	中国駐日大使館教育処	0	20,000	20,000	0	
合　　計		533,729	7,780,109	7,916,385	397,453	

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内　　容	金　　額
経常収益への振替額	
受取寄附金への振替額	90,000,000
基本財産受取利息への振替額	43,318,499
受取助成金への振替額	136,385
合　　計	133,454,884

9. 引当金の内訳

引当金の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,163,600	4,214,801	3,163,600	―	4,214,801
退職給付引当金	28,685,283	3,164,332	873,025	―	30,976,590

10. 受取会費の内訳

受取会費の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内　　容	金　　額
法人賛助会員会費　41社	10,400,000
個人賛助会員会費　15名	150,000
合　　計	10,550,000

11. 事業収益の内訳

事業収益の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内　　容	金　　額
日中高校生のサマーキャンプ　参加費（81名）	7,372,500
高等学校中国語韓国語研修会　参加費（86名）	1,134,000
学術著作権協会　オーストラリア複製権機構著作権使用料	351,595
『外国語学習のめやす』冊子　258冊売上	229,280
日韓中高校生ダンス交流　参加費（9名）	180,000
委員手当、講師謝金、原稿料　5件（文化庁国語科、大修館書店等）	89,300
外国語学習のめやす　実践ワークショップ参加費	14,000
合　　計	9,370,675

12. 受取寄付金の内訳

受取寄付金の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内　　容	金　　額
使途特定寄附金	
（株）講談社　※	90,000,000
一般寄附金	
個人　48名	282,000
合　　計	90,282,000

※使途特定寄附金として指定正味財産にて受入れた115,040,000円のうち、一般正味財産へ振替えたもの。

2012年度の実施事業一覧

Ⅰ 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

事業内容		実施時期	実施場所
「くりっくにっぽん」ウェブサイトの運営	日本語版／英語版／中国語版のリニューアル	10月/11月/12月	
	韓国語版の開設	2013/3	
米国ウィスコンシン州メナーシャ合同学区の日本語教育を支援		通年	米国メナーシャ市
第34回よみうり写真大賞高校生部門「フォト&エッセーの部」（読売新聞社主催）を後援		8月-2013/1	東京
大連市日本語教師研修を共催		8/29-30	中国大連市
黒龍江省教育代表団を招聘		10/1-5	東京、埼玉
東北三省日本語教師研修を共催		10/26-28	中国ハルビン市
好朋友カリキュラム作成日本研修を主催		2013/2/15-21	埼玉

Ⅱ 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

事業内容		実施時期	実施場所
高校の中国語・韓国語をはじめ隣語教育を応援する「Ringo」ウェブサイトを運営		通年	
拓殖大学第一高等学校が課外授業として実施する「韓国語講座」に協力		4-11月	東京
「中高生のための韓国語講座2012」を共催		5月-2013/3	東京
高校生のための土曜日講座「楽しく学ぼう！　中国語」をISI国際学院と共催（5-7月）、開催に協力（10-12月）		5-7月、10-12月	東京
高校生のための中国語講座「学んでみよう中国語！」（桜美林大学孔子学院主催）に協力		6/2-7/21 10/20-12/15	神奈川
高等学校中国語教育研究会の活動に協力	事務局	通年	
	中国語教育学会10周年・高等学校中国語教育研究会30周年記念合同大会を後援	6/2-3	千葉
「実践サポートめやすweb」の開設		6月	
第5回「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト地区予選大会を後援	東日本地区予選大会（工学院大学孔子学院主催）を後援	7/15	東京
	西日本地区予選大会（在大阪中国総領事館、立命館孔子学院共催）を後援	7/22	京都
平成24年度高等学校中国語担当教員研修を共催		7/24-8/6	中国長春市
2012年高等学校韓国語中国語教師研修を共催		8/3-7	大阪
2012年外国語担当教員セミナーを共催（上記研修の一部として）		8/3-5	大阪
高等学校中国語教育研究会支部活動を後援	第8回沖縄県高校生中国語発表会	10/27	沖縄県那覇市
	第17回近畿地区高等学校中国語弁論大会	11/10	大阪府吹田市
	第12回東海地区高校生中国語発表会	11/11	名古屋市
	第18回高校生中国語発表大会	11/23	千葉県成田市
	第11回九州・山口地区高校生中国語発表会	12/9	長崎県佐世保市
	第9回北海道地区高校生中国語発表会	12/9	札幌市
	第13回北陸地区高校生中国語発表会	12/22	石川県金沢市
	第4回山陰地区高校生中国語発表会	2013/2/16	鳥取県米子市
「話してみよう韓国語2012 ～2013」地方大会を後援	第11回大阪大会 （駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	11/10	大阪
	第11回東京・学生一般大会 （神田外語大学、駐日韓国大使館韓国文化院主催）	12/8	東京
	第6回熊本大会 （熊本大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	12/8	熊本市
	第1回愛媛大会 （愛媛大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	12/9	愛媛県松山市
	第8回鹿児島大会 （鹿児島大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	12/9	鹿児島市

「話してみよう韓国語2012 ～2013」地方大会を後援	第8回青森大会 （青森大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催）	12/16	青森市
	第4回福岡大会 （福岡大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	12/16	福岡市
	第8回鳥取大会 （鳥取県、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催）	12/23	鳥取県米子市
	第3回愛知大会 （愛知大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催）	2013/1/5	名古屋市
	第4回東京・中高生大会 （東京・中高生大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催）	2013/1/27	東京
	第4回新潟大会 （新潟大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催）	2013/2/17	新潟市
高等学校韓国朝鮮語教育研修大阪大会（JAKEHS主催）を後援		11/17-18	大阪
中国語教育取り組み校経験交流会を主催		12/15	東京
『外国語学習のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（市販版）を発行		2013/1	
第30回全日本中国語スピーチコンテスト（日本中国友好協会主催）を後援（国際文化フォーラム賞を贈呈）		2013/1/12	東京
第6回クムホ・アシアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会に協力		2013/3/16	東京

III　国内外の小中高校生間や教育関係者間の交流を促進する事業

事業内容		実施時期	実施場所
世界の中高校生の交流プロジェクト「つながーる」の運営		通年	
協働を生み出すプログラムの開発		通年	沖縄、東京、台湾ほか
「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」を実施	漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ（中国国家漢弁主催）	7/23-8/2	中国長春市、北京市、千葉県成田市
	日本語橋：中国の高校生サマーキャンプ（吉林省教育学院と共催）	7/25-8/1	中国長春市
「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ同窓会」を主催		8/11	東京
「日韓 中高校生交流プログラム SEOULで댄스・댄스・댄스（ダンス・ダンス・ダンス）」を共催	事前研修	1/13、2/10、3/10	東京
	ソウルでの交流	3/28-4/1	韓国ソウル市
	報告会	4/28	東京

IV　TJF広報活動

事業内容		実施時期	実施場所
TJFウェブサイトの運営		通年	
『国際文化フォーラム通信』を発行	第94号	4月	
	第95号	7月	
	第96号	10月	
	第97号	2013/1	
「国際文化フォーラム通信」ウェブサイトの運営		通年	
『事業報告2011-2012』を発行	日本語版	9月	
	英語版	10月	
	中国語版	10月	
	韓国語版	10月	

主要事業データ

I 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

大連市日本語教師研修を共催

期間	8月29～30日
場所	大連教育学院（中国大連市）
共催	大連教育学院、TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
講師	中新井綾子（日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員）、武田育恵（大連弘文中学日本語教師）
参加者	大連市内の中高校日本語教師　20名
内容	(1)中高校日本語教師のコミュニケーション能力向上をめざしたプロジェクトワーク（大連市在住の日本人にインタビュー） (2)日本語教材『好朋友』の教授方法等に関する意見交換

東北三省日本語教師研修を共催

期間	10月26～28日
場所	ハルビン市朝鮮族第一中学校（中国ハルビン市）
共催	黒龍江省教育学院、TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
講師	中新井綾子（日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員）、武田育恵（大連市弘文中学日本語教師） 〔ファシリテーター〕神戸明子（JICA隊員、ハルビン師範大学日本語教師）
参加者	日本語教師40名（遼寧省7名、吉林省7名、黒龍江省25名、北京市1名） 遼寧省日本語指導主事 1名、大連市金州区日本語指導主事 1名 吉林省日本語指導主事 1名 黒龍江省日本語指導主事 1名
内容	(1)中高校日本語教師のコミュニケーション能力向上をめざしたプロジェクトワーク（ハルビン市在住の日本人にインタビュー） (2)日本語教材『好朋友』の紹介と意見交換

好朋友カリキュラム作成日本研修を主催

期間	2013年2月15～21日
場所	埼玉
主催	TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
講師	中新井綾子（日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員）、武田育恵（大連市弘文中学校日本語教師）
参加者	『好朋友』を使った授業を担当している日本語教師5名（遼寧省3名、吉林省1名、黒龍江省1名）
内容	バックワードデザイン、can-doによる目標設定などを取り入れて『好朋友』のカリキュラムを作成

黒龍江省教育代表団を招聘

期間	10月1～5日
場所	東京、埼玉
主催	TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
招聘者	5名（黒龍江省日本語指導主事、二外日本語導入モデル校校長ほか）

II 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（市販版）を発行

仕様	A4判／128ページ／2色
発行月	2013年1月
部数	3,000部
定価	本体953円+税

2012年高等学校韓国語中国語教師研修を共催

期間	8月3～7日
場所	関西大学（大阪）
主催	TJF
共催	関西大学大学院外国語教育学研究科
特別共催	駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂、在日本中国大使館教育処
後援	文部科学省
協力	高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、 高等学校中国語教育研究会
主任講師／講師	當作靖彦（米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授／主任講師） 〔韓国語担当〕 任喜久子（大阪府立花園高等学校教諭）、 中川正臣（目白大学非常勤講師）、 南潤珍*（東京外国語大学准教授） 〔中国語担当〕 植村麻紀子（神田外語大学専任講師）、 胡玉華（関西学院大学常勤講師）、山崎直樹*（関西大学教授） *各言語のリーダー
参加者	97名
内容	(1)高等学校の外国語教育（中国語・韓国語教育）の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深め、学習者がコミュニケーション能力を獲得するための授業のあり方を考える。 (2)高等学校の中国語や韓国語の授業づくりにグループで取り組む。 (3)高等学校において中国語や韓国語を担当している教員のネットワークを強化する。

平成24年度高等学校中国語担当教員研修を共催

期間	2012年7月24日～8月6日
場所	吉林大学（中国長春市）
共催	中国国家教育部、中国国家漢弁、文部科学省、TJF
受託実施	吉林大学
助成	漢語橋基金
講師	劉富華（吉林大学教授／主任講師）ほか13名
参加者	22名

「中高生のための韓国語講座2012」を共催

期間	5月～2013年3月
場所	駐日韓国大使館韓国文化院（東京）
共催	駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂、TJF
講師	鄭賢姫
参加者	23名

高校生のための土曜日講座「楽しく学ぼう！　中国語」を共催

期間	5月～7月
場所	ISI国際学院（東京）
共催	ISI国際学院、TJF

講師	展偉静
参加者	9名

中国語教育取り組み校経験交流会を主催

期間	12月15日
場所	東京
主催	TJF
助成	漢語橋基金
後援	在日本中国大使館教育処
参加者	校長等管理職、国際交流担当教師、中国大使館書記官等、計22名

III 国内外の小中高校生間や教育関係者間の交流を促進する事業

協働を生み出すプログラムの開発

期間	通年
場所	沖縄、東京、台湾ほか
主催	TJF
プロジェクトメンバー	稲垣忠（東北学院大学准教授）、城間真理子（沖縄県立向陽高等学校教諭）、米田謙三（羽衣学園中学校・高等学校教諭）、Tsai Minsyan（高雄市立高雄高級工業職業学校教諭）
協力校	沖縄県立向陽高等学校

「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」を実施

漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ

期間	7月23日～8月2日
場所	中国長春市、北京市、千葉県成田市
主催	中国国家漢弁
実施	TJF
助成	在日本中国大使館教育処、公益財団法人双日国際交流財団
後援	在日本中国大使館教育処、外務省
協力	文部科学省
特別協力	ANA
参加者	中国語を学ぶ日本の高校生86名、引率教師等、計92名

日本語橋：中国の高校生サマーキャンプ

期間	7月25日～8月1日
場所	中国長春市
共催	吉林省教育学院、TJF
助成	国際交流基金北京日本文化センター、公益財団法人双日国際交流財団
参加者	日本語を学ぶ中国の高校生53名、日本語講師等、計58名

「日韓 中高生交流プログラムSEOULで댄스・댄스・댄스（ダンス・ダンス・ダンス）」を共催

期間	2013年3月28日～4月1日 （事前研修：1/13、2/10、3/10、報告会：4/28、いずれも東京で実施）
場所	東京、韓国ソウル市
共催	秀林文化財団、TJF
後援	神奈川韓国教育院、埼玉韓国教育院、東京韓国教育院、千葉韓国教育院
協力	国立ソウル大学言語教育院、光新高等学校、韓国日本語教育研究会、学校法人秀林外語専門学校、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク
協賛	アシアナ航空
参加者	韓国語を学ぶ日本の中学生2名、高校生7名および韓国の高校生15名

IV TJF広報活動

『国際文化フォーラム通信』を発行

仕様	A4判／16ページ／2色
発行月	4月（第94号）、7月（第95号）、10月（第96号）、1月（第97号）
部数	4,500部
テーマ	第94号　「新しい公共を担う」 TJFは2012年で設立25年、公益財団法人に移行して1年を迎えた。新しい公共の担い手が数多く生まれ、その活動はますます活発になり、大きな役割を果たしている。どういったミッションを掲げ、どのように活動を行っているのかをいろいろな方にうかがい、公益を担うとはどういうことなのか、公共のためにどうあるべきなのかを改めて考えた。 第95号　「未来（あす）を生きぬく力」 情報通信技術の飛躍的進歩で、人は、時間、距離、場所の壁を軽々と越えられるようになった。社会が変化するスピードも、ますます加速している。これからの時代を生きぬくために必要な力は何か。いま何から始めたらよいのか。独自の道を切りひらいている4人の方々にインタビューした。 第96号　「解をつくりだす」 ひとりがリーダーとなり決断して答えを出す。そんな時代はすでに終わりを告げた。自分なりに考えた解をそれぞれがもち寄り、それらを総合的に判断、議論して、誰もがもっていなかった解にたどりつく。激しいスピードで変化し、想像もできなかった課題に直面する社会にあっては、そんなアプローチが求められている。 第97号　「〈考える〉を刺激する」 考え方や生き方に着目し、その人の視点を掘り下げることが、読み手の〈考える〉を刺激する。そう信じて、日本情報発信サイト「くりっくにっぽん」は生まれ変わった。新しい試みのひとつとして、2012年度明治大学国際日本学部のゼミと連携し、「くりっくにっぽん」のコンテンツづくりに取り組んだ。新しい「くりっくにっぽん」を紹介し、ゼミでの1年を追ったルポルタージュを掲載。

事業報告（日本語版）を発行

仕様	A4判／32ページ／4色
発行月	9月
部数	800部

事業報告（英語版・中国語版・韓国語版）を発行

仕様	A4判／8ページ／4色（一部1色）
発行月	10月
部数	各100部

財団の概要

設立	1987年6月22日 2011年4月1日、公益財団法人に移行
出捐企業	王子製紙株式会社 株式会社講談社 大日本印刷株式会社 凸版印刷株式会社 日本製紙株式会社 株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行
基本財産	20億円

財団の組織

評議員会長	野間 省伸	(株)講談社代表取締役社長
評議員	饗庭 孝典	東アジア近代史学会副会長
	足立 直樹	凸版印刷(株)代表取締役会長
	北島 義斉	大日本印刷(株)代表取締役副社長
	中村 雅知	日本製紙(株)代表取締役会長
	長瀬 眞	(株)ANA総合研究所代表取締役社長
	奈良 久彌	(株)三菱総合研究所特別顧問
	渕上 一雄	王子製紙(株)代表取締役社長
	持田 克己	(株)講談社専務取締役

（評議員任期：4年）

代表理事	**理事長**	渡邊 幸治	公益財団法人日本国際交流センター シニア・フェロー 元駐ロシア特命全権大使
代表理事	**常務理事**（常勤）	内藤 裕之	(株)講談社社長室付
	理事	上野 田鶴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長
		梅田 博之	麗澤大学前学長、東京外国語大学名誉教授
		金丸 徳雄	(株)講談社取締役
		輿水 優	佐野短期大学学長、東京外国語大学名誉教授
		境 一三	慶應義塾大学教授
		佐藤 郡衛	目白大学副学長（10月就任）

（理事任期：2年）

監事	木村 芳友	(株)講談社常任監査役
	清水 至	公認会計士、(独)理化学研究所監事

（監事任期：2年）

顧問

小田 厚	(株)トーハン海外事業部長
加藤 哲朗	日本出版販売(株)専務取締役
北島 義俊	大日本印刷(株)代表取締役社長
篠田 和久	王子ホールディングス(株)代表取締役会長
鈴木 孝夫	慶應義塾大学名誉教授
野口 文博	日本製紙物流(株)代表取締役社長
藤田 弘道	凸版印刷(株)相談役
鮑 啓東	人材派遣健康保険組合前理事長
松岡 紀雄	神奈川大学名誉教授
三木 繁光	(株)三菱東京UFJ銀行特別顧問
水谷 修	名古屋外国語大学国際コミュニケーション研究所長
吉田 研作	上智大学教授

（顧問任期：2年）

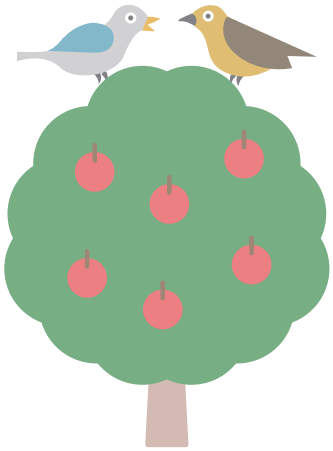
敬称略、五十音順
2013年 9月現在

事務局

事務局長	水口景子				
事務局主任	藤掛敏也	室中直美			
事務局副主任	千葉美由紀	長江春子			
職員	安藤まどか	柴田幹子	中野敦	宮川咲	森亮介

表紙・本文デザイン　goldfish design（山本義明）

りんご記念日



あなたの大切な「りんご記念日」に メッセージ&写真と寄付で 未来を担う若い人たちの隣語との 出会いを応援しませんか。

りんご＝隣語

隣の人とつながるためのことば、
あなたにとっての外国語のことです。

❶ あなたにとって大事な日は いつでも「りんご記念日」です

外国語が通じる喜びを知った日
遠い国の切手が宝物になった日
初恋の子がシンガポールに引っ越した日
「イクラ」がロシア語だと知った日
英語で喧嘩して仲直りした日

❷ その日の写真が なくても大丈夫

記念日のメッセージに、思い出の写真やイラストを添えてください。困ったらご相談ください。イメージ画像をご用意します。

❸ Webページへ

搜索 Search 검색

りんご記念日 TJF ▸検索

❹ 寄付金は一口 3,000円からです

Webページで記念日を決めてから振り込んでください。TJFが入金を確認後、あなたのメッセージを掲載します。

参加方法はWebをCHECK!　http://www.tjf.or.jp/ringokinenbi/

1989年8月29日
十五歳のわたしが一年の海外留学に出発した日。
ホストファミリーが家族としてむかえてくれた日。

はじめて親とはなれ、「ちがい」のなかに放りこまれた。
話すことば、家ごとの習慣、都市と農村のくらし、恋愛事情、歴史観…

ちがうから面白い。ちがうから苦しい。ちがうから知りたい。

異文化への一歩をひらいてくれた、わたしの「隣語」は英語。
身につけたことばが、ちがいを超えてつながる力をくれた。

ちがうからこそ伝えたい！
であった人たちが、分かりあうことを諦めない
わたしに育ててくれた。

ありがとう。
感謝のことばに代えて、いま、若い人たちに
あたらしい世界とのであいを、
今度はわたしが贈る番。

8月29日
2014年のメッセージ

Webページへ　りんご記念日　TJF　検索